

伝える!休館中のミッション

仙台市博物館巡回講座—仙台の歴史や文化、美術の魅力をお届けします!

今年度から市民センターとの共催事業で「仙台市博物館巡回講座」を始めました。当館職員が市民センターを巡り、所蔵品などを紹介します。今年度は「伊達政宗」、「仙台藩の武具と工芸品」、「江戸時代のアートな仙台」、「体験!プレイミュージアム」をテーマに7館で15講座を行う予定です。

博物館の魅力をぎっしりと詰め込み、皆様にお届けします。案内は各市民センターからお伝えしています。皆さまのお住まい近くの市民センターにおじゃまるかもしれません。

開催する市民センター等のお問い合わせは博物館まで。



▲「仙台藩の武具と工芸品」旭ヶ丘市民センター

現在の改修工事のようす

今後も改修工事の進捗状況を随時発信していきます。



▲館内からの眺め(1月)



▲(6月)



6月現在の外観

上の写真で、窓からの眺めの違いをご覧ください。左が令和4年1月、右が6月の写真です。今回の大規模改修工事では、館内だけでなく館外でも作業が行われており、博物館の石の外装材を洗浄・修繕するため、館全体を囲うように巨大な足場が組まれています。当面はこの作業が続きますので、安全のため建物に近寄ることが難しく、遠くから眺めていただく形になりますが、館内では職員が変わらず収蔵資料の管理や情報発信といった様々な業務を行っています。

Event Information

仙台市博物館×生出市民センター共催事業

第43回仙台市史講座 歴史の中の生出村

明治時代に作成された村是(村の振興計画)と、大仙台構想における仙台市への編入を中心に、近代以降の生出村の歩みを紹介します。

申込制
聴講無料

【日時】10月21日(金)10:00~11:10(開場9:30)
【会場】生出市民センター 第1・第2講義室
【定員】40人(応募多数の場合は抽選)
【講師】仁昌寺正一氏(東北学院大学名誉教授)
【申込】9月28日(水)まで(当日消印有効)

往復はがきに、講座タイトル・住所・氏名(ふりがな)・電話番号を記入し、下記までお申し込みください(1通につき1人まで)。

<あて先> 〒980-0862 仙台市青葉区川内26 博物館「市史講座」係

問 仙台市博物館 ☎ 022-225-3074 ※会場には駐車場がございませんので、公共交通機関をご利用ください。

仙台市博物館

〒980-0862 仙台市青葉区川内26 <仙台城三の丸跡>



ホームページ / 仙台市博物館 イベントの開催など最新の情報をホームページでお知らせしています。

TEL 022-225-3074 FAX 022-225-2558

8:30-17:15 ※土・日・祝日、年末年始(12/29~1/3)を除く
※新型コロナウイルスの感染拡大状況等により、イベントが中止等になる場合があります。
※再生紙を使用しています。この印刷物はリサイクルできます。



休館中の

仙台市
博物館
だより
HAKUBUTSUKAN DAYORI

vol.
206

2022.9月
2022.11月

黒と赤の対比が印象的で、

華やかな金銀糸のモールで飾られた大胆なデザインの陣羽織です。使われている毛織物やモールは遠くヨーロッパからきたものです。桃山時代には、海外への憧れから日本各地の武将の間で南蛮美術が流行しました。この伊達政宗の陣羽織も、その時代に作られた貴重な一点です。

表紙の資料
山形文様陣羽織 伊達政宗所用
(重要文化財)より部分
仙台市博物館蔵

資料の全図



(大きさ・肩幅44.0cm×丈88.0cm)

歴史と文化を未来につなぐ SENDAI CITY MUSEUM
— 観る、知る、楽しむ。学んで、考える博物館 —

資料をみる目

いろいろ

歴史 × 美術 × 子ども

歴史の目

秀吉と政宗

この太刀は、天正17年(1589)に豊臣秀吉が伊達政宗に贈ったものです。太刀とともに政宗へ宛てた手紙には、政宗が目の赤い鶴とそれを獲った鷹を秀吉に贈った返礼として、鉦国行という太刀を贈ると記されています。

鷹を使った狩りでは、鶴のように大きな獲物を仕留める鷹は珍重されました。政宗から鷹とともに贈られた獲物の鶴を見て、秀吉はとても感心したそうです。優秀な鷹を得た秀吉は、さぞ上機嫌で政宗へ手紙と太刀を贈ったことでしょう。

美術の目

刀の特徴

国行は、鎌倉時代以降に山城国(京都府南部)で活躍した、来派とよばれる刀工集団の実質的な始祖とされる人物です。

この太刀は、茎とよばれる持ち手側の部分を削り上げ大磨上となり、もとの姿からは変わっているものの、身幅は広く、重ね(刀身のふくらみ)は厚く、鎌倉時代に制作された、当時の豪壮な姿をよくとどめています。鋼を折り返し鍛錬することによって刀身の表面にあらわれる木目のような鍛え肌は、たいへんきめが細かく、刃文(刃の側に白くみえる独特の模様)は、不規則かつ複雑に入り組んだ小乱とよばれるものです。こうした刀の見どころともいえる景色は、刀工の繊細かつ高度な技巧により成せるものです。

江戸時代の伊達家の蔵刀目録・『剣槍秘録』(寛政元年・1789成立)の筆頭として記される貴重な太刀です。

豊臣秀吉所用 伊達政宗拝領 太刀 無銘(「鉦国行」)

仙台市博物館の代表的な収蔵品のひとつ「鉦国行」について、歴史的な背景や美術工芸品としての特徴などを紹介します。



子どもの目



Q どうしてこの名前がついたの?

A 鉦とは、刀の手元の部分にはめる金具のことなんだ。鉦の両面に「国」と「行」という文字があることから、このように呼ばれるようになったんだって。国行は、鎌倉時代にこの刀をつくったとされる人の名前なんだよ。

Q だれがもっていた刀なの?

A 伊達政宗が大切にしていた刀だよ。政宗が、豊臣秀吉からお礼にもらったもので、刀と一緒に送られてきた手紙も残されているよ。

Q 刀の長さはどれくらい?

A はしからはしまで測ると91.9cmになるんだ。学校の先生が、黒板に書くときによく使う、1m定規より少し短いくらいだね。普段は刃を守るためや周りを傷つけないように、鞘というケースに入れておいたんだ。

今秋、福岡市博物館で
鉦国行が展示されます!



▲福岡市博物館特別展チラシ

古文書ワンフレーズ

追伸

豊臣秀吉に呼び出されて京都にいた伊達政宗が、安達郡(福島県)に来ていた秀吉の有力家臣・浅野長政に宛てた手紙で、秀吉との会談内容などの報告です。追伸には、紙の長さが足りず自分のサイン(花押)を小さく書いたと記しています。花押は自分の手紙である証明ともなったので、「疑わないで下さい」とも書き加えています。



尚

尚

加

々

々

申

申

申

申

入

入

申

候

候

申

福岡市博物館で
展示されます!

現在の手紙の追伸にあたる部分で、「尚々」や「追而」で始まるため、尚々書・追而書などと呼ばれます。本文右側余白の少し下がった位置から、本文より小さい字で書き出しています。手紙の追伸は、現在は本文の最後にまとめて書かれますが、古文書ではこのような配置になっていることが多いのです。



伊達政宗書状 浅野長政宛(天正19年・1591)2月9日 重要文化財
仙台市博物館蔵

これ、なあに?

道具でのぞく博物館

博物館で使っている道具を通して、博物館の仕事をのぞいてみませんか。今回は、学校の授業で活用可能な貸出教材を紹介します。



貸出教材



▲「楽山公行列図巻」パネル(一部)

この駕籠に乗っている人が楽山公です

貸出教材 人気ランキング

第1位 楽山公行列図巻パネル

第2位 支倉常長像パネル

第3位 縄文土器模造品

※令和3年度に貸出件数が多かった教材です。



▲その他の貸出教材

貸出教材とは、授業で当館所蔵の資料を活用していただくため、学校に貸し出しているものです。写真パネルや資料のレプリカなどがあります。

数ある教材の中で特に人気なのが、仙台藩13代藩主・伊達慶邦の参勤交代の行列を描いた「楽山公行列図巻」の原寸大パネル(60枚)です。

このパネルは、つなげると約50メートルの長さになり、すべて並べて観察すると、江戸時代の大名行列の様子や人数の多さを知ることができます。社会科の授業で「参勤交代」を取り上げる際に、学習資料として使うのにぴったりの教材です。

他にも、各種教材を用意しています。くわしくは、当館ホームページでご確認ください!